

# 第10期千葉県生涯学習審議会第6回会議及び

## 平成27年度第2回千葉県社会教育委員会議事録

平成27年10月27日(火)

午後2時から午後4時

千葉県立中央図書館 講堂

出席委員(敬称略五十音順)

大久保良孝 黒澤 真澄 黒田江美子 佐久間敦子 千藤 尚志  
高田 悦子 立原 充彦 田村悦智子 中澤 潤 福田 正明

出席事務局職員

千葉県教育庁教育振興部長 金子 英孝

千葉県教育庁企画管理部教育政策課

主幹兼教育立県推進室長 松田 裕二

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課長 藤田 武

<学校・家庭・地域連携室>

主幹兼室長 鵜澤 智

副主幹 渡辺あけみ

主査 加藤 寛

<社会教育振興室>

主幹兼室長 飯田 博一

社会教育班

社会教育主事兼班長 金木 勝己

社会教育主事 梅澤 一久

社会教育主事 常世田敏彦

社会教育主事 菅井香代子

社会教育主事 宇野 健一

社会教育主事 遠山 宗利

社会教育施設班

社会教育主事兼班長 矢部 進

副主幹 鎌形佐知夫

社会教育主事 相浦 敦

葛南教育事務所 社会教育主事 東 秀行

東葛飾教育事務所 社会教育主事 赤澤 敏樹

北総教育事務所 社会教育主事 東 勝

同 社会教育主事 葉山 憲一

東上総教育事務所 社会教育主事 久我 康之

同 社会教育主事 行木 邦光

さわやかちば県民プラザ所長 浅岡 裕

千葉県立中央図書館長 鵜澤 堅治

同 副館長 高橋 正名

千葉県立西部図書館長 河野 明美

千葉県立東部図書館長 木内 史佳

# 1 開 会

## 2 あいさつ

教育委員会あいさつ（金子教育振興部長）

会長あいさつ（中澤生涯学習審議会会長・社会教育委員会議議長）

## 3 報 告

### (1) 千葉県教育振興に関する大綱（素案）について

〔資料を事務局から説明〕

議 長 報告事項について、質問・意見はあるか。

委 員 大人だけが子供を教育するのではなく、子供同士の育ち合いによって、子供が成長するという視点があってもいいのではないか。子供同士の育ち合いの視点とは、子供にとっての遊びであり、子供の成長・発達にとって遊びがどれだけ大切かということである。

地域社会全体でという表現であるが、その中に子供たちの育ち合いの環境づくりという要素があってもよかったと思う。

事 務 局 貴重な御意見ありがとうございました。子供同士の育ち合いの視点が重要だということを踏まえ、様々な教育施策の実施に努めてまいりたい。

### (2) 社会教育における子供の貧困対策について

〔事務局から説明〕

議 長 報告事項について、質問・意見はあるか。

委 員 事例集として配布するほかに、この調査は具体的にどのように生かされるのか。

事 務 局 一つには、国の大綱を受け、子供の貧困対策に関する計画を立てているところであろうから、そのヒントになればということである。社会教育が関わる貧困対策には温度差があり、ほとんど進んでいないのが実態ではないかと思われる。事例を拾い出すことによって、他の都道府県や市町村の参考になればということがある。

また、予算要求をする際の資料として、生かされるのではないか。

議 長 (2) については以上でよろしいか。(3) 全国社会教育研究大会について。

(3) 全国社会教育研究大会千葉大会について  
〔事務局から説明〕

議 長 報告事項について、質問・意見はあるか。

(4) その他

議 長 (4) その他 報告はあるか。

事 務 局 【事務局より、全国社会教育研究大会大分大会について  
報告】

委 員 感想も含め話をしたい。先ほど事務局から話もあったが、1,500名近い参加があった。半分以上が大分県で、大分県を含む九州だけで8割近い人数が集まった。社会教育委員連絡協議会と公民館連絡協議会が協力してこれだけの人数になったとのこと。来年の千葉大会においても、いろいろな団体と協力をしながら進めていかなければならない。

また、九州は大分県をはじめ、福岡県の自然活動や鹿児島県の自治公民館活動など、社会教育のベースがしっかりしていると感じた。分科会でも、教育委員会の諮問に対して答申したり建議をしたり、教育委員との話し合いを実施している自治体もあつたりと、社会教育委員自身の実践が発表されていた。参加した多くの社会教育委員が、刺激を受けたのではないかと思う。

来年の千葉大会は、分科会の運営の仕方も、グループ討議による今までとは違った形になり、全国が注目している。「オールちば」で力を合わせ成功させたい。

#### 4 協 議

(1) 「子どもの読書活動推進計画（第三次）」に基づく読書県「ちば」の推進について

- ・「千葉県子どもの読書活動推進計画（第三次）」に基づく「読書県『ちば』」の推進について（生涯学習課）
- ・さわやかちば県民プラザの子ども読書活動推進への取組
- ・千葉県立図書館の子どもの読書活動推進への取組

議 長 引き続き協議に移る。御意見を頂きたい。

委 員 県立図書館を中心に様々な取組はされていると思うが、身近な市町村立図書館での活動がやはり鍵になる。地域には子

育てサークルや子供の読み聞かせの団体、あるいは学校にも読み聞かせボランティアの方がたくさんおられる。学校を通じてその方々に声を掛け、図書館に限らず読み聞かせというものの幅を広げていくことが大事だと思う。

また、小さなお子さんを抱えるお母さん方のために、託児所を設け、お子さんと一緒に参加できたらよい。

委員 一つは第三次計画の図書館等の中に、公民館図書室も含まれている。公民館との連携も大事になってくるので、今後それを五カ年計画の中で意識してほしい。

二つ目は先ほどの県民プラザの報告にあったが、南房総、九十九里方面の参加者が少ない。県南に県立図書館があるとよい。

5か年の中でいろいろ計画しているが、全部は難しいので、どれを重点的に行うのか、特に市民の担い手づくりが大事になるので、それを整理して行ってほしい。

委員 県立図書館をはじめ市町村立図書館の職員は読書の普及ということに長年従事してきているわけだが、「読書県『ちば』」を掲げ、行政の方々が読書普及に関わってくれるのは、大変ありがたい。

さわやかちば県民プラザの読書普及の様々な事業についても、役割がよく分かった。県立図書館は、私たち市町村立図書館の職員が、日々市民サービスとして普及活動を行っていく上での支えになっている。本の提供とか物流だけでなく、調査研究のバックアップでも大事な後ろ盾となってくれて非常に助かっている。

子どもの読書活動推進センターを立ち上げて、全県を回るということは大変だと思うが、地域格差もあるので、全県をカバーできるような人材の確保や予算の確保をお願いしたい。

委員 学校では、朝読書や本に親しむための様々な取組を行い、本を好きにさせようとしている。子供たちは、図書室などでよく本を読んでいる。しかし、学校以外で読んでいるかという、難しいところがある。人材の育成については、よくやってもらっているので、どう連携していくかがポイントになると思う。

地域による格差をどう埋めていくかも課題だと思う。公民館図書室を充実させたり、学校の図書室を充実させたり、地域を呼び込むことも一つの方法ではないかと思う。図書館のない地域では、学校の図書室に地域の方が気軽に来られるようにし、そういった活動を通して読書を広げていくことができるとよいと思う。

委員 困難や逆境を乗り越えて生きていくための力を養うということは、読書から得られるものであり、読書活動の根本でもある。先ほど、千葉県の教育振興に関する大綱（素案）について報告されたが、それらと別々のものではなく、千葉の教育全体の中で読書活動を重視するということが、子供たちを豊かに育てていくということではないか。

担い手の育成ということであるが、県民プラザで開催されている講座は、部活動に取り組んでいる若い教職員にとって参加しにくい時期である。生涯学習や図書館教育に関係することは、初任者研修や大学のカリキュラムの中に入れるなどして、若い時点で学んでほしいと思う。

浦安市では、ほとんどの学校で保護者の方が読み聞かせのボランティアとして育っている。PTA活動とは別に読み聞かせのボランティアサークルができ、図書館の方が関わってくれている。団塊の世代などシニアの人たちを育てるという考え方もあるが、子供の在学中だけでも、現役の親世代を育てていくことも必要ではないか。また、それが後につながっていく。

県立の図書館は3館しかないが、県立は県立らしい活動をして市町村立図書館の支えになり続けてほしい。

県民プラザの取組については、どう広報していくかが重要ではないか。ここで育って、こんな取組をして、こんな成果があったというようなことを、広く県民の心に届くような広報をしていくことが大切だ。

委員 図書館が充実していないような地域において、学校が果たす役割は大きいと思う。学校は、地域の文化センター的な役割を果たすべきだと思っている。図書館を建てる予算がなければ、地域の小中学校や高等学校に本と人を配置すれば、少ない予算で文化の分配ができる。図書館1館を建てるならば、図書館が充実していない地域に、センター的な学校をいくつか作る方が、多くの子供たちや親に平等にチャンスを与えることになるのではないか。

学校に図書館の代替としての役割をさせるために、少し切り離した予算と人を当ててほしい。

委員 読書の裾野を広げるために、PTAの代表として、家庭教育学級やPTA連絡協議会の研修会等で、読書活動の素晴らしさを保護者に伝えていかなければと思う。新入生説明会等で話すことも、ふだんなかなか学校に来られない保護者に伝えるよい機会になる。

委員 研修会へ県南の参加者が少ない。出前講座ではないが、各

地域に出向き一人でも多くの人に活動してもらうため、一緒にやろうと参加を呼び掛けてほしい。

単純なことだが、子供たちに本のすばらしさを伝えることが大事なのではないか。これだけ様々な取組をしているにもかかわらず、残念なことだが、子供や親に本のすばらしさが伝わっていない。本は楽しいもの、本は自分の力になるということ、それが想像力だったり、困ったときの助けだったり、いろんな分野の知識だったりすることを、本気で伝えていかなければいけないと思う。

委員 一般企業では「P D C A」や「費用対効果」で結果が出るが、生涯学習は一生のものなので時間が掛かり、なかなか結果が出ないものだと思う。担当者の方の努力に感謝する。

読書活動の推進には、県民のあらゆる年代に対し、周知に努めなければならない。

図書館というと、子供が騒いだり飽きたりするので、子供を連れて行きづらいところがあるが、デパートなどでの「おはなし会」はとてもよいと思う。まず、幼児や子供たちが「本」を手にするような環境を作ることが大事ではないか。

議長 手近なところに本があることが一番大事ではないか。何人かの委員からも出たが、公民館や学校の図書室を地域に開放できればいいと思う。本を買えない家庭もあるので、貧困対策ではないが、幼稚園や保育所のようなところでも、本の貸出しができるとうい。

県立図書館は「子どもの読書活動推進センター」として、いろいろな情報を統括し、そこからいろいろ発信できるとよい。

読み聞かせについては、教員養成の大学として、幼稚園教諭の課程では行っているが、小学校以上の課程でも必要だと思う。

議長 以上をもって、本日の議事を終了し、議長の任を解かせていただく。

5 諸連絡 生涯学習課長あいさつ

6 閉 会